

《上海ベビーブームの謎》

上海では 2006 年の婚姻件数は、前年比 15%増の 15 万件が見込まれています。また、既に産婦人科病院の予約が取れないほどの妊娠・出産ブームが起っています。かつて晩婚化やディンクス家庭の増加が問題になった上海で、いったい何が起こったのでしょうか？

中国の干支では、犬と豚(日本では猪)が吉祥の象徴とされます。60 年周期の六十干支によると 2006 年が「金犬年」、2007 年が「金豚年」となり、特に「金豚年」に生まれた子供は最も幸せであるとされていることから、皆がこぞって結婚し、「金豚ベビー」を産もうとしているのです。

この急激なベビーブームは、出産費用の高騰を招いています。

あるインターネット会社に勤める孫女史は、最近「上海東方医院」で女の子を産みました。妊娠期間中の様々な検査費用が約 5 千元、出産のための 5 日間の入院が約 6 千元となり、合計 1.1 万元(約 165 千円)の費用がかかりました。かつて 3 千元(約 45 千円)程度とされていた出産費用は、産婦人科病院が様々な検査項目やサービスを付加したことにより、一気に 3 倍以上となったのです。

また、既にベビー用品価格の上昇等の連鎖反応も確認されています。以後、大勢いる「金豚ベビー」たちの成長のためには、通常より高い生育費用を払わなければならないことも予想され、「金豚」がお金を呼ぶ前に親のお金があるかとも心配です。

実際に 60 年前に生まれている「金犬」「金豚」爺さん、婆さんは、全員お金持ちでしょうか？私はそうは思いません。同時期に多数子供が生まれると当然、入学や就職に影響を与え、激しい競争に直面することに決まっており、少しかわいそうな気がします。

一方、このベビーブームに伴う婚姻の増加は、この上海に新たな展開ももたらしています。実は 10 年前は、17% 不足であった上海戸籍者と非上海戸籍者の婚姻比率が、現在はなんと 4 割近くにまで上昇しているのです。「金犬」「金豚」により、多くの結婚したい男女が誕生したことで、古い常識が破壊され、パートナー選びが人柄や能力を重視するようになりました。「金犬」「金豚」の幸福は、実はこういう所にあるのかも知れません。



公園で結婚写真撮影の順番を待つ花嫁



繁盛するベビー用品専門デパートの様子

以上